巻頭特集 業界シェアNo.1プチプチ製造会社

川上産業株式会社

今や梱包材として誰もが知るプチプチは、くれよんエリアで製造されているのをご存知でしたか？
プチプチの誕生秘話と最新プチプチ情報を調べてきました！

空気の入った粒々が大切なものを衝撃から守ってくれるというプチプチを日本で最初に作ったのは、東京と名古屋に本社を構える川上産業株式会社だ。創業は1968年。創業者・川上聰氏を筆頭に数名で名古屋市中川区内の、とある会社の一画を借りて「川上研究所」を設立したことから始まる。

プチプチの本来の用途は梱包材ではなかった!?

そもそも、プチプチは日本で発案され誕生したものではない。1960年代初期、アメリカでプールの落ち葉防止のカバーや壁紙として使われていたのを目にした川上氏は、日本での将来性を感じ、当時勤めていた会社に製造を提案。しかし受け入れてもらえなかったため、会社を辞め、独自に製造へと乗り出したのだ。

まず最初に取り掛かったのは、プチプチを製造するための機械製作だった。国内にはまだ存在していない、川上氏らだけが知るプチプチの製造機を作ってくれる会社はなく、自らが考えては製作を繰り返すこと約3年。やっとプチプチを完成させ、各企業に営業に回る日々が始まった。初めて見るプチプチにどの会社でも興味を持ってもらえたものの、なかなか採用に至らず、販売を定着させるには苦労したというが、当時、梱包材として主流だった新聞紙や段ボールとの質の違いは歴然で、一度採用されると、繰り返し注文を受け、いつしかプチプチは国内でも梱包材として定着していった。そして販売部門を強化するため、1976年に名古屋市港区に「川上産業株式会社」を設立。名古屋、東京、大阪、福岡に営業所が開設された。

プチプチは俗称ではなく、商標登録されたれっきとした商品名

形状や使用感から誰もが当たり前のように「プチプチ」と呼んでいるが、正式名称は「気泡緩衝材」で、販売当初の製品名は「エア・バッグ」だった。しかし、車にエアバッグが導入されてから勘違いされることが多くなり、2代目社長だった川上肇氏が名付け親となり「プチプチ」へと改称。1994年に商標登録がされた。一度聞いたら忘れ難いその名称に、お客様からは社名ではなく「プチプチさん」と呼ばれることも少なくなかったという。

現在、北海道、宮城、栃木、群馬、神奈川、愛知、兵庫、福岡の8カ所に工場を構え、同業界では60％以上というトップシェアを誇るなか、あま市にある名古屋工場では全工場の20％と生産量が一番多い。その量をわかりやすく表現すると、バンテリンドームナゴヤを1500個分包める長さを一年間に生産しているのだとか。

information
川上産業株式会社 名古屋工場
あま市乙之子百歩15

名古屋工場 工場長 木野義晴さん

製品展開もどんどん広がり、定番のプチプチの空気が入っている一粒は直径10㎜だが、7㎜・20㎜・32㎜をラインナップ。最少の7㎜は柔軟性があるので小さなものでも包みやすく、コンパクトな仕上がりに。直径32㎜のものは大きく重量感があるものなど、用途に応じて使い分けるのがオススメだ。

また、粒々の形状がハート形や四角形があるのもご存知だろうか？実はハート型の「はぁとぷち」は2004年に販売を開始しており、ピンク・イエロー・ブルーなど全8色を販売。きれいにハート型を成型するのに大変な技術を要したが、今ではギフト・ラッピング用に活躍している。

2021年には粒々が四角い「スパスパ」が発売された。スパスパはハサミを使うことなく手でスパッと切れるのが特徴。包んだ際に膨らみが出にくいため、きっちり梱包できるという利点がある。

ちなみに、こんなに薄く軽量なプチプチにどれだけの緩衝効果があるのか、社内実験をしたことがあり、プチプチで包んだ生卵を社屋の3階から落下させても、卵は割れなかったという。また、プチプチに鉄板を載せ、その上を4tトラックに通過させても、耐えられるという結果もでた。一粒ひと粒は指で簡単に潰せるプチプチだが、広い面積で受ける荷重には非常に強いということが証明されている。

プチプチの用途は緩衝材だけではない

国内において、緩衝材として誕生させたプチプチだが、今では色々な使われ方をしているのをご存知だろうか？

まずは、きっと誰もがやったことがあるであろう、プチプチ潰し。指でぎゅっとつまむと「プチッ」というシートが弾ける音と空気が抜ける感触はとても心地よい。そんな遊び心をさらに楽しんでもらいたいと、つぶす専用の「プッチンスカット」という商品も登場している。一般のプチプチは粒の上部になるに従い小さくなる円錐台だが、空気を多く含めるよう、粒が円柱になっているので、潰れたときの爽快感がさらに高まるという。

また、空気の粒がたくさんあり、熱を伝えにくい断熱効果があることから、断熱・結露防止用に窓や温室に貼るのもオススメ。トンネル工事の現場でも気温差によるコンクリートの割れを防ぐために使用されているそうで、機能は多岐にわたる。

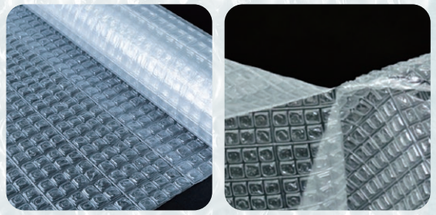
どんなものでも包める技術と環境保全を追求

創業からわずか50年余りで、日本の梱包資材の常識を覆し、数多くの製品展開を遂げてきた川上産業。製品作りのみならず、プラスチックごみゼロ化と資源の有効活用、CO2排出量削減に積極的に取り組み、企業や学校等にプチプチ回収ボックスを設置。使用済みとなったプチプチやポリ袋などを回収し、製品の原料として再利用している。その努力の甲斐あり、ポリエチレンを主原料とするプチプチは、現在、80％以上に再生原料を使用しているが、将来的には100％の再生原料を目指しているという。そのためにも、回収ボックス設置場所の増加や、現在、異素材を組み合わせて作っている製品も、機能は維持したまま同一素材にする研究をこれからも続けていくようだ。

はぁとぷち® | 贈り物等に最適なハート型のプチプチ。全5色。

プチプチ® | 気泡の一粒の直径が7mmから最大32mmまでラインナップ

プッチンスカット® | 潰す専用のプッチンスカット。梱包用より潰れた瞬間の爽快感がアップ!



スパスパ® | 四角い気泡のスパスパ。手でちぎれるからとても便利!

※上記4商品は川上産業株式会社の登録商標です

出荷場には、天井まで積み上げられたプチプチがいっぱい!